

競争を走れ!

アミール・ツアルファティ

- ギリシャからのメッセージ -

<https://youtu.be/5pzO54GXbCk>

私たちは今、ギリシアのアテネにいます。ここは世界で最も古い競技場の一つで、“カリマルマロ”として知られる競技場です。カリマルマロは、美しい大理石という意味で、世界で唯一の、大理石で作られた競技場です。2,000年以上前の、ギリシア帝国の時代にまでさかのぼります。これを見れば、当時のアスリートたちの生活が理解出来るでしょう。この競技場は、ギリシア語で”スタディオ”と呼ばれ、…ちなみに、ヘブライ語でも同じ呼び方です。そして、人々が競争を走った方法、それがまさに、今日、お話しすることです。「競争を走り続けよう!」

聖書のヘブル人への手紙12章には、競争を走ることについて重要なことが書かれています。聖書には、私たちが走るべき競争について、次のように書かれています。聖書のヘブル人への手紙12章には、こうあります。

こういうわけで、このように多くの証人たちが、雲のように私たちを取り巻いているのですから、私たちも、一切の重荷とまわりつく罪を捨てて、自分の前に置かれている競争を、忍耐をもって走り続けようではありませんか。信仰の創始者であり完成者であるイエスから、目を離さないでいなさい。この方は、ご自分の前に置かれた喜びのために、辱めをもともせず十字架を忍び、神の御座の右に着座されたのです。(ヘブル12:1-2)

聖書は私たちに、競争を走らなければならない、と伝えています。ヘブル人への手紙の筆者は競争について語っていて、パウロ自身も、1回以上、競争を走ることについて述べています。それも、競争を走り終えろ、と。さて、パウロはどんな競争について話したのでしょうか? たしかに、肉体的な競争も含まれます。でも、実際には人生の競争について話していたのです。信者として生きる人生の競争です。彼は、肉体的な鍛錬^{たんれん}について言っているわけではありません。なぜなら、単純に、彼がテモテへの手紙を書いたとき、テモテへの手紙第4章で、パウロは次のように書いています。

これらのことを兄弟たちに教えるなら、あなたは、信仰のことばと、自分が従ってきた良い教えのことばで養われて、キリスト・イエスの立派な奉仕者になります。俗悪で愚にもつかない作り話を避けなさい。むしろ敬虔のために自分自身を鍛錬しなさい。(第一テモテ4:6-7)

彼は鍛錬について話していますが、しかし、彼が言っているのは、敬虔のための鍛錬です。それから彼は言いました。

肉体の鍛錬も少しは有益ですが、今のいのちと来るべきいのちを約束する敬虔は、すべてに有益です。(第一テモテ4:8)

ですから、パウロは間違いなく競争が、肉体の物理的な鍛錬と解釈され得る事に気づいていました。しかし、彼は言います。「肉体の鍛錬も結構ですが、でも、敬虔に生きるための鍛錬ほど有益ではない」敬虔に生きる事は容易ではありません。競争を始めることと同じくらい大変です。私はランナーではありませんが、私にも分かります。私が走った時、強い熱意をもって走り始めますが、数分後には、それが容易な^{ようい}ことではないと、なんとなく理解しますよね。実際、最初の障害を乗り越えるのが大変なんです。そして、あるところまで来ると、だんだんペースをつかめるようになります。それでも、走り続けることは容易なこと

ではありません。そこで、私たちが自問自答すべき事は、パウロは競争をどう考え、競技場での競争を使って、信者の生き方をどう例えていたか。パウロは正統派ユダヤ教徒、パリサイ派で、彼はそういう生き方をしていませんでした。では、パウロは世界のどこで、競争を走るアスリートの生活を知ったのでしょうか？もちろん、パウロはカイサリアで2年間、獄につながれていました。そして、カイサリアには競技場がありました。でも疑いなく、パウロがその種の生活様式を理解するための、もっとも重要な競技場の一つを、彼は、アテネに来た時に見たのです。聖書の使徒の働き17章によると、パウロは、しばらく、ここに滞在しました。ご存じのように、アテネ人の生活の一部は、肉体、容姿を美しく見せることが全てでした。そしてギリシャは、…ところで、それが世界に包括的な概念をもたらしたのです。つまり、重量挙げ、ボディビルトメント、マッサージ、スパ、その他。これら全てのものは、ギリシア時代に由来しているのです。ギリシア人は、神は唯一ではなく、たくさんいると言いました。私たちは思い起こさなければなりません。ギリシア人の考えの一部は、「人間もまた、神々の一部である。だから、しっかり教育し、美しさを磨き、健康に気を配らなければならない」そして、それらに多くを費やすことによって、それ自体が彼らの神々になったのです。しかし、敬虔とは運動などではなく、全く異なるものでした。ですから、正統派ユダヤ教徒としてパウロは、カイサリアでローマの競技場を見ました。でも、疑いなく、もっとも立派な競技場は、ここにある、古代アテネの競技場でした。そして、使徒の働き20章18~24節で、聖書は次のように語っています。パウロは、エペソの人々に手紙を書いて、次のように言いました。

ご覧なさい。私は今、御霊に縛られてエルサレムに行きます。そこで私にどんなことが起こるのか、分かりません。ただ、聖霊がどの町でも私に証して言われるのは、鎖と苦しみが私を待っているということです。けれども、私が自分の走るべき道のを走り尽くし、主イエスから受けた、神の恵みの福音を証しする任務を全うできるなら、自分のいのちは少しも惜しいとは思いません。(使徒の働き20:22-24)

ですから、パウロは理解しているのです。信者としての人生だけでなく、神の御言葉を証する任務は競争だ。パウロは言います。「彼らが自分を傷つけようと構わない。彼らが自分を獄に入れようとも構わない。一つ私に言えるのは、私が望むのはただ自分の競争を全うし、神から受けた福音を証する事だけだ」

ところで、ここできちんと理解しておきましょう。誰が競争を走るのか。競争を走るのにふさわしい人々とは誰なのか。聖書によれば全ての人です。イエスを受け入れた人は、すべて、この競争の走者です。この、イエスを証しする義務を、免れる人はいません。聖書は言います。

それは、あなたがたを、やみの中から、ご自分の驚くべき光の中に招いてくださった方のすばらしいみわざを、あなたがたが^の宣べ伝えるためなのです。(第一ペテロ2:9)

彼は言います。神が、あなたを暗闇から連れ出されたのは、すばらしいみわざを、あなたがたが皆に^の宣べ伝えるためだ。ですから、これは私たちが忘れてはならない義務なのです。聖書は、これらすべての事について述べています。私たちは覚えておかなければなりません。信者は、この競争の走者です。聖書には、ある人は走者で、ある人はそうではないとは一切書かれていません。もし、神があなたを神のもとに召されたならば、神は、また、あなたが競争を走れるように備えてくださいます。競争を走ることは、敬虔な生活を生きることであり、イエスの福音を、世界中の人々に証しする任務を成し遂げることです。これは、ほんのわずかな人々にしか出来ないことだとは思いません。では、なぜ「走る」のでしょうか。なぜ「歩く」ではないのでしょうか。走ることは挑戦であり、走るには、たくさんの努力が必要です。走ることは、何らかのスキルが求められることであり、走ることは、^{たびたび}度々、私たちが、この世の物事からどのように逃れるかを語ります。私たちは、走り、物事から逃げなければなりません。ですから、これを私たちは覚えておかなければなりません。聖書のコリント人への手紙第9章には、私たちはどのように走るべきかが、書かれています。

競技場で走る人たちは、みな走っても、賞を受けるのはただひとりだ、ということを知っているでしょう。ですから、あなたがたも、賞を受けられるように走りなさい。また闘技をする者は、あらゆることについて

自制します。彼らは朽ちる冠を受けるためにそうするのですが、私たちは朽ちない冠を受けるためにそうするのです。ですから、私は決勝点がどこかわからないような走り方はしていません。空を打つような拳闘もしていません。むしろ、私は自分のからだを打ちたたいて服従させます。ほかの人に宣べ伝えておきながら、自分自身が失格者にならないようにするためです。(第一コリント9:24-27)

パウロは私たちに言っています。私たちが競技場に入るとき、最初から負けると分かっているような走り方をしてはいけません。言い換えると、ただ、歩いて散歩するような競争はできないということです。あなたは、競争で勝利すると知って、走らなければなりません。なぜなら、賞を得るのは1人だからです。もちろん、パウロは言っています。

“ご覧なさい。あなたは、走れば、何があっても勝利者になります。なぜなら、私たちの冠は朽ちるものではなく、朽ちないものだからです。私たちが走るのは、葉の冠を得るためでも、この世の名声を得るためでもありません。私たちは、もっと高く、はるか向こうにあるものを得るために走るのです。”

パウロが言った、その賞、その栄冠は、パウロのために用意されていて、そしてパウロだけではなくイエスの現れを慕っている者には、誰にでも授けてくださるのです。私たちは忍耐をもって、自制しながら走らなければならない、と聖書は言います。では、どうすれば私たちにそれができるのでしょうか。一つお伝えしましょう。私たちに、忍耐をもって走るように言われる理由は、世界中で起こっているすべての事は、周囲のいたるところから私たちにまわりつく、全ての困難や全ての罪、私たちの周囲で起こっている、すべての悪や全ての偽善は、容易に私たちを打ちのめし、または、容易に私たちを疲れさせます。さらには…認めましょう。多くの人々が、携挙はいつ起こるのかと自問自答しています。私は、イエスと一緒にいるのが待ちきれない。私にはそれが必要です、と。聖書は、私たちは忍耐をもって走らなければならないと告げています。私たちは忍耐強くあらねばならない、と。私たちは走らなければなりません。唯一、それを行う方法は、この世の物事に目を向けるではありません。聖書は言います。

信仰の創始者であり完成者であるイエスから、目を離さないでいなさい。(ヘブル12:2)

言い換えると、私たちが走るときは、この世の走者のようにゴールラインを見ながら走るのではなく、私たちはこのように(上を見ながら)走ります。聖書にはこうあります。

こういうわけですから、愛する者たち、あなたがたがいつも従順であったように、私がともにいるときだけでなく、私がいなくなるとはなおさら従順になり、恐れおののいて自分の救いを達成するよう努めなさい。神はみこころのままに、あなたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださる方です。すべてのことを、不平を言わずに、疑わずに行いなさい。それは、あなたがたが、非難されることのない純真なものとなり、また、曲がった邪悪な世代のただ中であって、傷のない神の子どもとなり、いのちのこぼれをしっかりと握り、彼らの間で世の光として輝くためです。そうすれば、私は自分の努力したことが無駄ではなく、労苦したことも無駄ではなかったことを、キリストの日に誇ることが出来ます。(ピリピ2:12-16)

いいですか。忍耐と我慢はとても大切です。繰り返しますが、私たちが引きずり降ろそうとするものが、私たちの周囲にあります。私たちは歪んだ世代に取り囲まれています。しかし、私たちは、忍耐を持って走らなければなりません。そうすれば私たちは、無駄に走ったり、私たちの働きが無駄になる事はありません。そこで、出て来る疑問は、“走らない”事も出来るのか?では、目的地となるゴールラインはどこでしょうか。

「信仰の創始者であり完成者であるイエスから目を離さないで走れ」と聖書が告げる時、目的地はどこでしょうか。聖書のコロサイ人への手紙3章は、まさに告げています。

キリストが、まさに今、神の右の座に着いておられる。(コロサイ3:1)

つまりそれは、彼はここではなく上におられるということで、信者のゴールラインは、この世ではなく天にあるということです。私たちがイエスの御前に着いたとき、私たちが天国に入ったとき、それがゴールラインです。それまでは、私たちは競争を走らなければなりません。私たちの目的地は天国です。私たちは、天国を行き先とした走者なのです。そして、天国で、私たちは「やり遂げた」と言うことができるのです。ところで、ゴールラインは次のどちらでもありえます。あなたが信者として亡くなって、天国に行っても、携挙の時に生きていて、天国に行っても、それがゴールラインです。その前にはありません。パウロが、自分の人生の終わりが近いと感じた時、唯一、その時、彼は競争を走り終えたと言いました。私は、競争を走り終えて、義の栄冠を受け取る。聖書には、パウロのゴールラインを、テモテへの手紙第二4章7節で、彼が描写して述べています。

私は勇敢に戦い抜き、走るべき道を走り終え、信仰を守り通しました。あとは、義の栄冠が用意されているだけです。その日には、正しいさばき主である主が、それを私に授けてくださいます。私だけでなく、主の現れを慕い求めている人には、だれにでも授けてくださるのです。(第二テモテ4:7-8)

このように、ゴールラインはまた、栄冠を受け取る場所でもあり、それは、もちろん私たちが天国に着いた時のことです。では、皆さんに質問です。この競争を無意味に走ることは出来るのか？聖書のガラテヤ人への手紙2章2節では、次のように書かれています。ガラテヤ人への手紙2章2節では、競争を走ることにについて、こう書いてあります。

それから十四年たって、私はバルナバと一緒に、テトスも連れて、再びエルサレムに上りました。私は啓示によって上ったのです。そして、私が今走っていること、また今まで走ってきたことが無駄にならないように、異邦人の間で私が伝えている福音を人々に示しました。おもだった人たちには個人的にそうしました。(ガラテヤ2:1-2)

無駄に走る唯一の方法は、福音を伝えないことです。おもだった人たちに対して個人的にでも、または、一般の人たちに対して、公にでも。決して、あなたの第一の義務を捨ててはいけません。神について話し、福音を伝えるのです。言い換えると、パウロは、この競争を無駄に走ることを心配していました。事実、ピリピ人への手紙2章16節では、パウロは無駄に走ることにについて、こう言っています。彼はピリピ人への手紙2章16節でこう言っています。

いのちのことばをしっかりと握り、…そうすれば、私は自分の努力したことが無駄ではなく、労苦したことも無駄でなかったことを、キリストの日に誇ることができます。(ピリピ2:16)

ですから、私たちは、いのちのことば、私たちに、いのちを与える御言葉は、私たちがしっかりと握りしめるべきものです。それも、ただしっかりと握るだけでなく、ほかの人も、それを持つ事が出来るよう、伝えなければなりません。そうすれば、私たちは間違いなく、無駄に走ることはないでしょう。ですから、これは重要なことです。ところで、賞とは何でしょうか？賞とは何でしょうか。私たちは何を心得るのでしょうか。私たちが話している、雲のように多くの証人たちは、ヘブル人への手紙12章でこう書かれています。

こういうわけで、このように多くの証人たちが、雲のように私たちを取り巻いているのですから、私たちも、一切の重荷とまとわりつく罪を捨てて、自分の前に置かれている競争を、忍耐を持って走り続けようではありませんか。信仰の創始者であり完成者であるイエスから、目を離さないでいなさい。この方は、ご自分の目の前に置かれた喜びのために、辱めをもものともせず十字架を忍び、神の御座の右に着座されたのです。(ヘブル12:1-2)

これが賞です。彼の元に行く事、そして、彼とともに、永遠のいのちにあずかる事。ですから、このように結論付けたいと思います。信者の人生は、競争です。その競争には、当然、福音を分かち合うことが含まれます。福音を伝えることのない信者としての人生は、無駄に競争を走る事です。この競争を走るには、忍耐

と我慢が必要です。私たちを取り巻く、曲がった邪悪な世代は、常に私たちに苦悩、苦痛や失望をもたらします。しかし私たちは、この世の事に目を向けるのではなく、イエスに目を向けることを常に覚えなければなりません。目の前に置かれた喜びのために、全ての苦しみを味わわれ、私たちに義の栄冠を保証してください。競争は、あなたがイエスを受け入れた瞬間に始まっています。そして、ゴールラインは、あなたが彼の御前に戻る時です。競争を走り、勇敢に戦い、立派に終わらしましょう。覚えておいてください。始まりは問題ではありません。どのように終わるかが問題なのです。あなたがどこから来たかは、問題ではありません。あなたがどこに行くかが、問題なのです。



メッセージ by Amir Tsarfati / Behold Israel :<http://beholdisrael.org/>

ビホールドイスラエル 日本語 YouTube チャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UCLcuvC6Mr63AqwiiXDkwRVQ>

2020.05.26 (Tue)